

平成 27 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2015

Date: 2016.3.22

言語社会専攻長
日本語・日本文化専攻長 殿
To Dean of Studies in Language and Society
To Dean of Studies in Japanese Language and Culture

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジア・アフリカ 教授
氏名 Name	米田信子
専門分野 Academic Field	言語学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	①バントゥ諸語の名詞修飾形式 ②バントゥ諸語の情報構造
<p>①バントゥ諸語の名詞修飾形式</p> <p>科研プロジェクト「バントゥ諸語における名詞修飾形式と意味関係に関する記述言語学的研究」の最終年である本年度は、これまで対象としていた標準スワヒリ語、スワヒリ語ジャンビアニ方言、ヘレロ語、ケレウェ語、ヤオ語、クワニャマ語に加え、ザンビアの現地調査で新たに、ベンバ語、トンガ語、ニャンジャ語、ランバ語のデータを収集し、主名詞と修飾部の意味関係による形式の区別の類型化を行った。この成果は 2016 年 6 月にヘルシンキ大学（フィンランド）で開催される The 6th International Conference on Bantu Languages で発表することが決まっている。</p> <p>②バントゥ諸語の情報構造</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ヨーロッパのバントゥ諸語研究者とともに 2014 年にスタートした共同プロジェクトで、担当するマテンゴ語の焦点の種類とそれぞれの提示手段について分析を行い、その成果を論文 “Conjoint/Disjoint Distinction and Focus in Matengo (N13).” にまとめた。この論文は Mouton de Gruyter から 2016 年内に出版される予定の <i>The conjoint/disjoint alternation in Bantu</i>. に掲載される。 ● 日本語の「ハガ構文」に類似したスワヒリ語の構文に見られる「主語」について分析を行い、その成果を論文「スワヒリ語における『～ハ～ガ』構文および類似した構文について」(『スワヒリ&アフリカ研究』27, 17-36) にまとめた。 ● 2016 年度から始める予定のヘレロ語のとりたて表現についてのデータの収集を行った。 <p>③その他</p> <p>共同研究「アフリカ諸語におけるイベント統合」の一環として、担当するヘレロ語に見られる移動表現の統合パターンを分析した。その成果は、7 月にノーザンブリア大学（ニューカッスル, 英国）で開催された The 13th International Cognitive Linguistics Conference.(7名での共同発表)と 8月に京都大学で開催された The 8th World Congress of African Linguistics (単独)で発表した。また、論文 “Event integration patterns in Herero: The case of motion event components.”が <i>Asia and Africa Languages and Linguistics</i>. 10. (2016 年 3 月発行)に掲載された。</p>	